

2022年10月15日
日本広報学会第28回研究発表全国大会
@東日本国際大学

災害広報における よそ者、（若者）、ばか者の役割



越智 小枝

東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座

福島との関わり

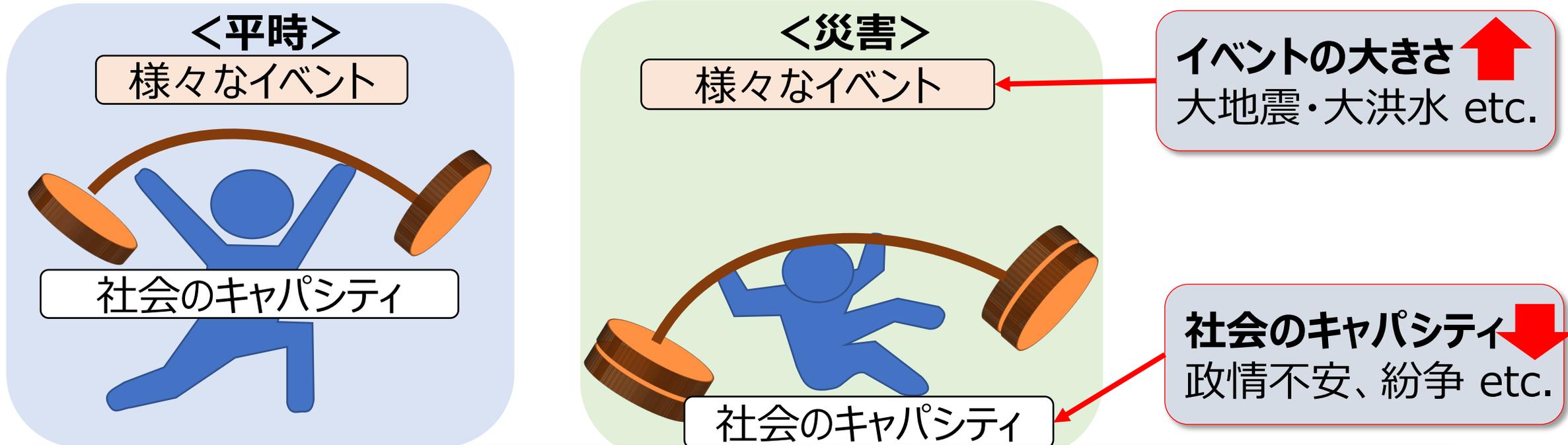
- 2011年 留学が決まった直後に3.11→災害の研究
- 2013年11月～ 福島県相馬市で医師
- 2017年4月 ～ 東京慈恵会科大学臨床検査医学講座
- 2019年 コロナ禍

2つの災害でリスコミ（のようなもの）に関わる

災害における広報の難しさ

災害とは…

社会のキャパシティが飽和し、色々な事象を支えられなくなった状態



災害対策の成功は、「起こらなかったこと」でしか測れない
しかし、起こらなかったことの広報はむずかしい

災害時の社会

- 人・モノ・カネの不足
- 情報の不足
- 時間の不足

理想的な選択ができるとは限らない

どれが正しい選択なのか分かったとは限らない

平時の手段がとれるとは限らない

なんでさっさとPCR検査を増やさないの？

なんでさっさとヨウ化カリウムを配らなかつたの？

なんでもっと補償しないの？

なんでいつまでもWBCを行わなかつたの？

こんなこと**常識**でしょう！

**災害は「できなかつたこと」で測られる
→それができたら災害ではない**

誰が広報するのがよいのか？

成功する広報者のカテゴリー

1. Showrunners (ニュースキャスター・専門家) **災害直後に続々と登場**
2. Artists (芸術家) **YouTuber・芸能人**
3. Neophytes (新米)

災害 = 専門家が想定・対応しきれなかった事態
Neophytes (よそ者、若者、ばか者) の発信が重要

Elsbafh KD. How to pitch a brilliant idea. Harvard Business Review 2003 Sep.

災害時に必要な発信

この発信だけとなりやすい

災害時に見られる発信

本来の目的

既存の知識を伝えること

なにが未知・不可知なのかを伝えること

本来の価値基準

相手が知らないと損をするかどうか

本来の発信内容

緊急情報（警報など）

緊急事態終了情報

語り継ぐべき情報（知恵・歴史）

正解とべき論の横行

「自分の」意見の採択を重視

注目を浴びる発信を優先

メディア露出後の専門家の“闇落ち”

利他的・俯瞰的な発信ができるよそ者の発信が重要

災害時に必要なコミュニケーション

災害時に見られる対話

主役

参加する全ての人間

目的

お互いの学び (all teach, all learn)

内容

流動的

相手の反応により変化

共有した時間と場所のみで成り立つ

「主役は住民」→議論の丸投げ

学ばない専門家による説得・説教

切り抜かれた文言だけが拡散

炎上回避の無難な発言

“予定調和” “ガス抜き” の会

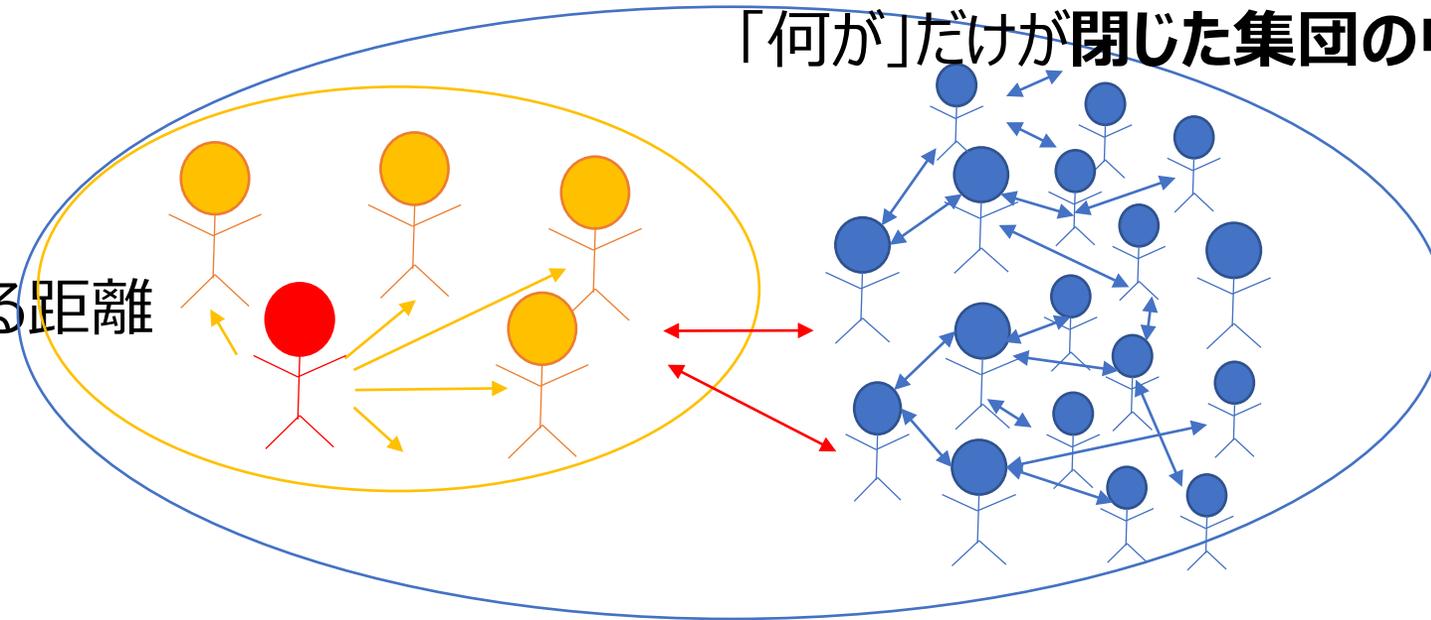
「分からない」ことを武器にできるばか者が重要

炎上はコミュニケーションの失敗ではない（私見）

拡散・炎上

「何が」だけが閉じた集団の中で増幅

共有
「誰が」が分かる距離



炎上は集団による「コミュニケーション拒否」
閉じたコミュニティを壊すことができる若者（？）が重要

4種類の情報

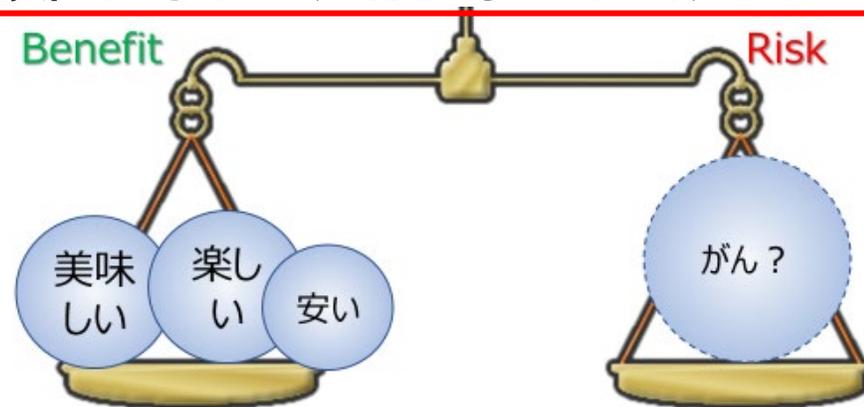
単純な情報： 放射能は目に見えない

専門的な情報： ベクレル、シーベルト

不確実な情報： 将来がんになる可能性

災害時に最も求められる情報

多義的な情報： 避難するリスクとしないリスク



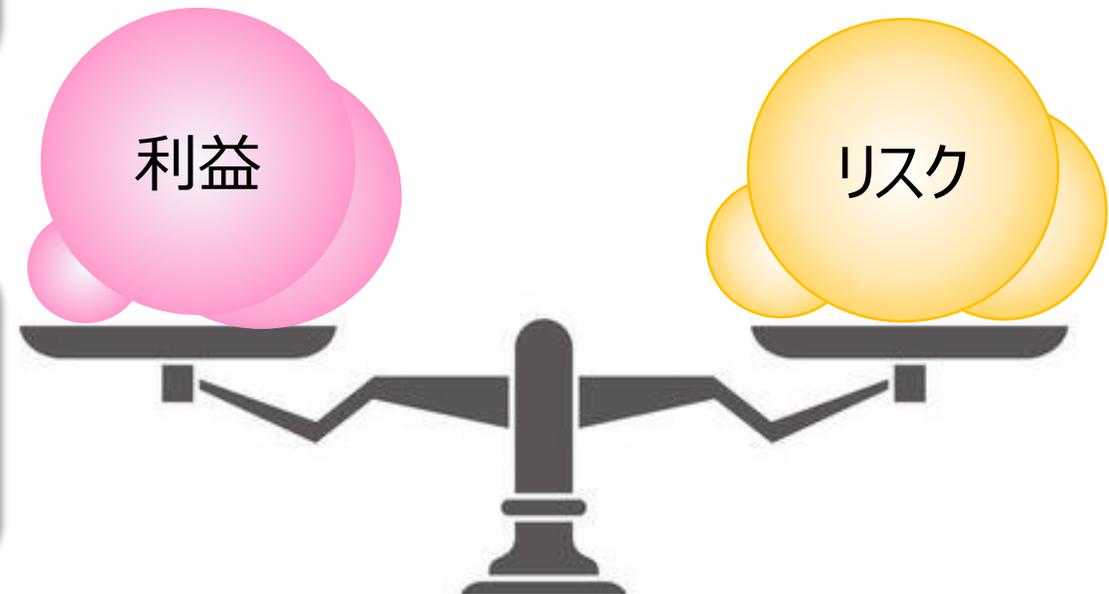
災害時の多くの情報に正義・正解・ゼロリスクが存在しない

災害時に良く行われる専門家への問い

- 福島県産品を食べてよいの？
- 甲状腺検査を子どもに受けさせるべき？
- マスクは着用するものなの？
- 無症状の人にPCR検査をするべきなの？



- 農薬のかかった野菜を食べていいの？
- 子どもにお菓子を食べさせていいの？
- タバコを吸っていいの？
- 人間ドックを受けるべき？



本来は自分で選ぶ権利と義務

災害時に起こること

平時

頑張れば解ける



災害

価値観の喪失



災害対応

答え自体がない



パニック

お互いを攻撃



専門家依存



価値観を失った人々によるパニックと他者依存

「結局」という他者依存

専門家が呼ばれ、価値観や生き方まで問われる

“結局避難した方がよいのか”

“結局 8割白粛をした方がよいのか”

先生が決めてください！

「福島の子どもは全員避難を」

「買い物は3日に1回にして下さい」



生活の規範まで他者任せ→「ファッショ」の土壌

災害時には「自主性」を嫌う人も

「リスクのバランスを個々人に判定させるようなサジェスションは無責任極まりない」
@放射線災害



「一部でもやらない人がいることで安全が脅かされるのだから、皆が同じ方向をむくべき」
@コロナ禍



有事には広報（専門家）に断言・強制・調教が求められる傾向
+それを助長する歴史と文化

① 穢れとお祓い文化（平安時代「延喜式」）

死体に触れると30日の物忌み、白骨は例外
物忌み中の家を訪問するとうつるが、靴を脱がなければ大丈夫
流れない水は穢れる



→科学がない時代の感染対策だった可能性

穢れ（福島）を見つけてお祓い（差別）することで
安心を得る文化

コロナ禍では：夜の街、若者、医療施設、旅行者

安全の儀礼祭典化

→祭主（専門家）には、**無垢**が求められる

②秩序主義的合理主義（江戸時代の官僚文化）

秩序の回復が科学的合理性よりも優先
年功序列
前例主義
避難所の秩序維持

分からない時には空気を読むことが優先
探求心が減退する文化



市民力、近所付き合いから 地域住民の役割
朝日新聞デジタル<https://www.asahi.com/articles/photo/AS20170802002776.html>

科学的根拠よりも**一体感による安心を与えること重視**
→専門家には**無思想**が求められる

③ 科挙文化と正解信仰（明治～昭和の受験戦争）

受験戦争の勝ち組が社会の上位に残る世界
論理で解決しない問題を解く力は退行
偉い人は正解を知っていなければならぬ



間違えると責任者が切腹すればよい、という文化

リスク対応は偉い人が知っている（他人事感）
→ 専門家には**無謬**が求められる



④炎上文化（平成・令和のSNS）

匿名の被害者（や、その代理人を名乗る人）が
特定の加害者を攻撃する

狩られやすい加害者とは？

政治家・官僚
医者
エネルギー関係者（発電所など）

自分以外の人間にリスクを
取らせる職業は、
炎上をさけられないことも

ゼロリスクがないのに**無害**を求められる専門家は沈黙
→無責任なShowrunnerの意見が横行

脱コミュニケーションの文化的背景（私見）

専門家に求められること

• 穢れ文化（平安時代）	リスク回避の儀礼祭典化	無垢
• 官僚文化（江戸時代）	意志よりも秩序を優先	無思想
• 科挙文化（明治～昭和）	正解信仰	無謬
• SNS文化（平成・令和）	加害者への過剰攻撃	無害

求められる専門家の役割は：

知識と正解で穢れを祓い、秩序を回復すること
被害が出た場合には切腹すること

他者に任せてコミュニケーションは不要という文化の醸成

災害時に必要な発信と対話

- 正義(悪者) がないことを知る・伝える
- 正解 (べき論) がないことを知る・伝える
- ゼロリスクがないことを知る・伝える



Showrunners (専門家) に疑問を投げかける人間こそが必要

利害や名誉が絡まない**よそ者**

コミュニティを破壊できる**若者**

「分からない」と言える**ばか者**

による広報が重要なのでは